

## 第23回ドングリまつりの報告

米道綱夫

10月25日（日） 10:00～14:00 天候 晴れ

参加者 10家族 合計31名（大人14名 小学生4名 幼児13名）

スタッフ 10名 酒井 小林氏 田中稔 川田 野口 竹内 岸田 小西  
土井 米道

朝はかなり冷え込んで少し寒いぐらいだったが、9時ごろから少しづつ暖かくなり、10時を越えるとちょうど秋の過ごしやすい天候になってきた。参加者が「堺自然ふれあいの森」の駐車場に本日の開始時間より早く集まってきたので、予定を10分はやめて東西道路の橋脚の下に移動。ここで開会の挨拶とスケジュールおよび注意事項の説明をして、すぐに東西道路法面（Cゾーン）へのドングリの播種を行った。すでに東西道路へは今年の3月27日（金）に大阪自然環境保全協会の高田前会長はじめ有志9人がドングリを播いている。現在の発芽状況は大体3割弱で、よく育ったもので高さ20センチ、そのほかは10から15センチぐらいであった。今回はどんぐりが育っていない部分に種をまいて空白な部分をなくそうとするものである。法面の下部の方が発芽の状況が良いのは、水分が下方にたまるためであろうか、空白の部分は法面の上部に多くみられ、その部分にドングリ（コナラ・クヌギ類）をひとつの穴に3個入れて合計100カ所ぐらいを子供・幼児とその親御さんとともに播いた。法面は傾斜がきつかったがスタッフが子供の手を取り、次へ次へと渡しながら作業を行った。

さて今回はスリランカ（1972年までセイロン）から2家族が参加した。erangaさん一家とその友人一家だ。私は受付の時インド人と思いナマステと声をかけるとスリランカだと言ってきた。2年前にはアメリカ人が観察会に見えたことがある。それ以来だ。

播種を終わってドングリの説明を英語ですることにした。この日のためにドングリの葉っぱの表裏の見本とドングリの実の実物の一覧表を作ってきたのでそれをもとに話した。

Today, I brought specimen of some acorn and leaf of beech.

The left side is leaf of kasiwa. I think it is the biggest leaf in oaks.

We know that it is used to leaf of Kasiwamochi.

と話したところでスリランカのerangaさんから日本語で大丈夫ですと言われてしまっ

た。私は堺の留学生のお世話を少しやっているので時々観察会の説明を英語にしてみる。説明が通じた時は大変嬉しいノダ。でも今日の eranga さんは日本に来て 9 年になる。奥様も日本人なので彼は日本語が堪能であった。スリランカはスリランカ民主社会主義共和国と言うのが正式名称だ。1948 年に独立。私たちが良く知っているセイロン紅茶は今でもこの国の特産品だ。宗教も仏教で日本と同じだ。高校の時にセイロン・ビルマ・タイは小乗仏教で戒律が厳しいと教えられた。日本・中国は大乗仏教である。Eranga さんは仏教ですか尋ねると仏教徒だと言う。スリランカでは人口の半分ぐらいが仏教徒らしい。

私たちは例年ドングリを使った工作・遊びそしてドングリ類の試食をしている。ドングリゴマとヤジロベイは土井・田中・岸田が、ミニリース・額作りは酒井・米道、イタドリのブーブ一笛・桜の枝の鉛筆は川田・小林が、ドングリ殻斗のイモムシは小西が担当、野口・竹内は忙しいところの応援に回った。凡そ 1 時間の工作時間は皆工作に集中した。幼児もお母さんやお父さんと色々なドングリ工作に挑戦してくれた。昼食前に子供たちが作った作品を発表し、記念撮影をした。

昼食は 30 分の時間をとった。気温が上がり少し汗ばむくらいだ。昼食時に「堺しぜんふれあいの森」のトイレへ連れて行くのだが、今回は暖かく誰も行かなかった。行事の中でトイレの時間と言うのはかなり時間を要するものだが今回は順調にと言うか少し早めに事が運んだ。

昼食後オオオナモミの的で、これはフェルトの生地に丸い的を作り、1.5m ぐらい離れたところから丸い的の中にひっつくようにオオオナモミを飛ばして競うゲームである。外来種のオオオナモミであるが最近減ってきてている。土井さんが言う。「このゲームは面白いのにできなくなるかもしれない」。外来種だからゲームができないほうがありがたいのか？子供たちの喜ぶ姿を見ると今しばらく繁殖しといてほしいと妙な感情になる。

最後は松ぼっくり飛ばしだ。これは松ぼっくりを 3m 離れたところにあるバケツにいれるゲームだ。運動会の時の玉入れと同じ要領で紅白に分かれて松ぼっくりをバケツに入れ、多く入った方が勝ちとなる。親子全員参加で 1 人 5 個松ぼっくりをもらいうけバケツめがけて入れるが大人も子供も真剣にバケツを狙って入れた。ゲームは紅白に分かれてそれぞれ一勝一敗となった。最後は赤が断然引き離して勝ったが、いい勝負であった。

これ以外にも答えが正しければ○の陣地まちがっているなら×の陣地に移動する○×ゲームもあったが、最近は年齢層が下がり、いつのころからかやらなくなってしまった。

最後はどんぐりや栗・むかご・しいのみの試食をしてもらった。ドングリの中でもマテバシイやシリブカガシノ実が食べられるということを知らない人が多い。またドングリヲ食べるとツンボになると言ったことを信じている人も多く、本当にツンボになるのですか？と聞く人もいた。ツンボにはならないが便秘又は下痢するかもしれない。毎年のことだがスタッフの皆さんは今日のためのドングリ集めや各種材料集めに奔走する。また工作では見本を作ったり、うまく伝授できる方法を考えたり、忙しい。本当に皆様お疲れさまでした。